

あすなろだより 6月号 part 1

広島市立美鈴が丘高等学校あすなろ会

担当 2-2 3-5



○「あしなが学生募金ボランティア」に参加しました！

5月12日（日）に、広島そごう前・広島駅前で、街頭募金活動を行いました。24名の美鈴が丘高校の生徒が参加してくれました。集まったお金は親を亡くした子供たちの進学支援に大切に使われます。参加してくれた皆さん、ありがとうございました。

* 参加した生徒の感想 *

- ・忙しいに関わらず、小さい子どもからお年寄りまでたくさんの方が募金してくれて、心が温まるいい経験になった。
- ・「私の子供がお世話になったので」と言いながら募金してくれる方がいて、この募金活動はとても大切なことだと改めて思った。
- ・最初、大きな声を出すのが、恥ずかしかったけど多くの方が応援してくださり、だんだん大きな声を出せるようになった。
- ・何度も行ったボランティアですが、行く度に新しい発見がありました。



・あしなが学生募金は、1969年に東京理科大学と青山学院大学の二人の学生が全国を行脚し、交通遺児を支援する募金を実施したことから始まっています。翌年の秋田大学学園祭で39大学が参加し募金を実施し、それが学生募金の基礎となったそうです。

「現在は一般財団法人あしなが育英会から奨学金を受けている大学生とボランティアが一緒になり、街頭に立ち、募金を集めています。「学生が学生を支援する」という形をとっています。これは奨学金をうけた学生たちが次は後輩たちのために、という恩返し運動の体現です。その恩返しは、交通事故遺児から災害遺児、病気、自死そして世界へとその優しさの輪を広げてきました。」

<https://www.ashinaga-gakuseibokin.org/about/>より一部引用

○浄心院に卒業生のジャージを持って行きました。

5月23日 試験終了日に、先輩方が寄付してくださったジャージを、発展途上国（モンゴル）へ贈っていただくために、己斐にある浄心院に届けに行きました。



* 参加した生徒の感想 *

- ・このジャージや手紙が遠いモンゴルの子供たちに届くと思うとすごく不思議でいいボランティアだなと思いました。
- ・祖国を愛している子どもたちの生活風景を描いた絵ハガキをいただき、とても繊細で鮮やかな絵でモンゴルの子供たちは、本当に絵が好きなのだと感じました。
- ・モンゴルに住む人々は夏は30度近くになり、冬は-40度にもなる地域で暮らしていて、生活に多くの工夫があることを教わりました。
- ・美鈴が丘の生徒だけでなく、多くの学校がジャージを寄付していて、遠くからもたくさん来ていてすごいと思った。
- ・モンゴルの子供たちに会ってみたいと思った。